

「防災DX」の推進を！

防災意識の向上や避難対策の強化を図るうえで、デジタル技術を活用し、「防災DX（デジタル・トランスフォーメーション）」を推進していくことが大変重要です。

そこで、公明党県議団は代表質問で、防災DXをさらに推進していくよう求めました。

デジタル技術を活用

これに対し、黒岩知事は、県総合防災センター（厚木市内）に、消火や津波などを三次元映像で疑似体験できる、本格的なVR体験プログラムを今年度中に導入すると答弁。

さらに県は、国と連携し、マイナンバーカードや専用の防災アプリを避難対策に活かすシステムの実証事業に着手します。

知事は、「このシステムが実用化されれば、自治体は、専用の防災アプリに入力された避難者の健康状態や配慮が必要な事項などを確認できるほか、広域避難した避難者の情報も、自治体間で容易に共有できるなど、避難対策の効率化と高度化が期待できる」としています。



「心不全パンデミック」を防げ！

本県では、心不全などの循環器病が原因で、年間約2万人の方が亡くなっており、今後、高齢化の進展により、さらなる患者の増加が懸念されます。

こうしたなか、メディアでは、今後、心不全患者が増え続け、患者が入院できない状況に陥る「心不全パンデミック」を懸念する声が出ています。

そこで、公明党県議団は代表質問で、「心不全パンデミック」とも言われる状況に陥らないようにするため、県としてどのように取り組んでいくのか質問しました。

黒岩知事は、今後予測される患者の更なる増加に対応するためには、急性期・回復期・慢性期といった、段階ごとに医療機関が連携し、患者の円滑な転院などを進めることが重要であると指摘。今年度、「脳卒中・心臓病等総合支援センター」が設置された東海大学付属病院の協力を得て、検査や外来、地域連携パスも含めた医療の連携体制について検討を進めると答弁しました。

また、心不全は再発する方が多いため、食事や運動を管理しながら再発を防ぐ心臓リハビリテーションを実施できる拠点を増やすことが必要であり、こうした心臓リハビリテーションの設備を整備する医療機関に対し、今年度から新たに補助を行うと述べました。

Profile

谷口 和史 プロフィール

神奈川県議会議員 4 期目
公明党神奈川県議団 団長

委員会

総務政策常任委員会

LINE



facebook



Twitter



Instagram



HAZUFUMI.TANIGUCHI

県政報告



ブログ



県議会控室

〒231-8588 横浜市中区日本大通1 神奈川県議会公明党控室 TEL:045-210-7630/FAX:045-210-8912